土木学会地震工学委員会

耐震基準小委員会　第 44 回（H22 年度第 1 回）委員会議事録

1. 日時：平成 23 年 1 月 7 日　14:00～17:00
2. 場所：土木学会Ｃ会議室
3. 出席予定者：

○中村晋	×有賀義明	×江尻譲嗣	×片岡正次郎	×北原武嗣
×工藤富士樹	○小西康彦	○酒井久和	○澤田純男	×菅野高弘
×砂坂善雄	×当麻純一	○飛田哲男	○長尾　毅	×中島章典
×中山　学	×西村和夫	×野津　厚	○本田利器	×三輪　滋
×室野剛隆	×森伸一郎	×吉田　望	×渡邊忠朋	○中島正人
○今村年成	（敬称略）			

以上 9 名

資料 44-0　平成 22 年度第 1 回耐震基準小委員会議事次第
資料 44-1　第 43 回（H21 年度第 3 回）耐震基準小委員会議事録案
資料 44-2　平成 22 年度「耐震基準小委員会」活動中間報告
資料 44-3　平成 22 年度　海外出張報告書
資料 44-4　１２／１４室野ＷＧの議事録（案）
資料 44-5-1　標準化ＷＧ　H22 第 1 回議事録（案）
資料 44-5-2　標準化ＷＧ報告書　学会における設計関連資料の標準化に向けて（仮称）

内容

１．前回議事録の確認（資料 44-1　中島幹事長）

・異議なく了承された.

２．H22 年度「耐震基準小委員会」活動中間報告（資料 44-1-2　中村委員長）

・H22 年度の活動について報告がなされた.

・H23 年度は年間 2～3 回程度、小委員会を開催したい.

３．ＷＧ活動報告，計画

（１）設計事例集 WG（資料 44-3，中村委員長）

・ISO/TC98/SC3 は、森委員の活躍により、次の状況まで進展した旨が報告された.

2010.12.2　DTR 受理（Acceptance）
2010.12.20　DTR 登録（Registration）　------　現在の状況
2011.3.20　DTR 受理（Approval）　-------　以下、今後の予定
2011.9.20　TR 出版（Publication）

・森委員には DTR 受理までやっていただきたい．また、TR 出版の段階になると日本語版が自由に作れなくなるので、同時平行で日本語版も作ってもらいたい.

・設計事例集の作成については、新たに WG を作り、次の体制で進めていくことになった.

委員長　：長尾委員

幹事長　：スエトミ様

活動内容：海外の性能設計基準について情報収集をして、日本の土木技術者が海外に持っていけるマニュアル作成を目指す．成果は、構造工学論文集に投稿することも念頭に置く．

（２）耐震設計法 WG（資料 44-4，本田委員）

・新たに、野津委員、豊岡氏（鉄道総研）にも WG のメンバーに入ってもらう．

（３）標準化 WG（資料 44-5-1、5-2，中村委員長）

・標準化ＷＧ報告書の目次、はじめにの内容説明がなされた．

・土木学会における設計関連資料（標準仕様書、指針、ガイドラインなど）に関して、現状、次の問題点があることが分かってきた．

－各委員会内、関係機関（公的機関、民間企業など）でのコンセンサスは得ているものの、学会として一般会員からのパブリックコメントへの対応も含めた標準化の手順を経ないまま発刊されている．

－そもそも、土木学会として、技術文書を標準化する手順は存在していない．

－各委員会で発行されている設計関係資料を横並びでみると、材料種別で技術基準を作成しているもの、構造種別毎に作成しているものなど、切り口もばらばらであり、土木学会の目指す標準仕様書の基本的な考え方とその体系が見えない．

・これらの問題点を踏まえて、標準化ＷＧでは、技術関連資料を作成するプロセスの標準化を行いたい．本委員会の範疇を超えている面もあるが、耐震設計は各基準に共通の事項であるので、本委員会が率先して、技術関連資料の作成プロセスの標準化を進めてゆきたい．

・建築と土木で基準の統合化は行わないのか？

⇒現段階では難しいので、まずは、土木学会の中での基準作成のプロセスの標準化を図りたい．

・各基準をお互いに参照し合えるようになるといい．

・この内容は、夏の全国大会の研究討論会にエントリーしたい．構造工学委員会と一緒にエントリーすることを模索する．また、土木学会誌へも投稿したほうがよい．

・上記の方向で検討を進めてゆきたい．また、認証についても議論を進めてゆきたい．

４．話題提供

東京工業大学大学院　松崎裕助教

「環境作用による構造性能の経年変化を考慮した構造物の耐震性能について」

５．その他

次回：6 月か 7 月ごろ（土木学会全国大会の前）に実施．

内容：　①標準化ＷＧの報告書

②耐震設計法 WG

③設計事例集 WG

以上